C－75 簡易化による被服構成の研究（第10報）－女物長着の衿肩明・くりこしの比較－

島根県立島根女短大　○野津裕子　岡　綾子

目的　和服は直線を主として仕立てられ、着付の仕方によってかなり融通のきくものであり、体型に関係なくだれにでも着用されうるという特徴をもっている。
和服の生命は衿元にあるといわれている。1969年島根県で着ごこちに関するアンケート調査を行った結果くりこしは着にくいと答えた者が96%もあった。そこで我々は着にくい点はどこにあるかを究明するために本研究に着手した。

方法　島根県立女短大の学生を対象に衿肩明・くりこしの2種について実験着を製作し、着用実験を試みた。

結果　①くりこしをすると背中央における衿付点の位置が低くなる。
②衿の傾斜は大となる
③衿から頸までの距離も大となる
④肩山で考えると衿から頸までの距離は小となる。
以上の結果によってくりこしの着にくい点が明らかになったと思われる。